

歴建

～故きを温ねて新しきを知る～

福島県女性委員会
委員長 酒井 美代子

東日本大震災から放射線という目に見えない恐怖と向き合い過ぎて参りました。震災後の活動は、放射線の事を学び放射線遮蔽住宅の調査をし冊子にまとめ発表しました。昨年的一年に一度県内の女性建築士が集まる「女性建築士のつどい」では、「変わりゆく いわきの現在(いま)」と題し、復興しているいわき市を見学しました。震災から5年が経過し、ようやく前に進める気持ちになり、一区切りすることになりました。

今年のつどいのテーマは「歴建」震災にも耐えぬいた県内の歴史的建造物を見学しました。郡山市の安積歴史博物館は、嵐の二宮和也主演ドラマ「坊っちゃん」で撮影された建物です。大講堂でのシーンを覚えていらっしゃいますか？現在はドラマの撮影やコンサート、部活の練習場所にも利用されています。この大講堂で「ヘリテージマネージャーの役割と展望」と題し基調講演と震災後の改修工事の説明があり、館内を見学しました。図書閲覧室には当時の教科書があり、実際に触れて臭いを嗅いでほしいとおっしゃっていました。模擬教室では、机やイスが並び、黒板に文字も書けます。机には合格や青春などの文字が彫られていたり、当時の学生達の気分も味わうことが出来ました。

翌日は郡山市開成館を見学し、安積開拓の歴史を学ぶと共に震災後の改修工事の話を聞きました。また昼食は、古民家を移築した本格和会食料理の「なごみ一席 成庵」でゆったりとお食事を取ることができ、すてきなつどいになりました。

この歴建の活動を通し、改修し保存することも大切ですが、知ってもらいさらに肌で触れてみる、利用するという事も大事だとわかりました。歴建を訪ねる旅もいいですね！新しい発見が出来るかもしれません。



郡山市・安積歴史博物館



安積歴史博物館 大講堂



安積歴史博物館 図書閲覧室



安積歴史博物館 模擬教室



郡山市・開成館



郡山市・成庵

■福島県ヘリテージマネージャー養成講習会

年度	受講者数	認定者数
H25	49名	38名
H26	36名	18名
H27	20名	16名
H28	25名	—
合計	130名	71名

<第一期生の感想> 7月～翌2月まで、月に2回、土曜日の半日(2日も有)。15回、60単位を勉強しました。建物を見せていただいたり、お話を聞かせて頂いたりして感じたのは、建物の持っている物語の力でした。建物を生み出した人の意志、時代の技、愛されてきた訳、繋いでゆく苦労などなど、建物を見に行くとは、時代時代の人々に会いに行くことでもあると改めて思いました。そしてどの建物も魅力的です。これからも、身近にあるお宝をどんどん見つけて大切にしていきたいと思っています。

■各支部の活動もご紹介します

<郡山支部>ヘリテージに関する勉強会をはじめ、安積歴史博物館にて図面の展示室を設けています。

<福島支部>国登録有形文化財の瀬上嶋貫本家で『集まれ 建築大好き女子♪ 歴建と楽食で大歓迎会&交流会』を行いました。旧街道にある歴史ある建物で11代当主の奥様からのご案内があり、新入会員の歓迎会と建築や女性委員会に興味のある方にご参加いただいて、交流会が開催され、素敵なお食事会になりました。

<猪苗代支部>猪苗代町にある国の重要文化財である福島県迎賓館(旧高松宮翁島別邸)の図面のデジタル化と特別公開に合わせた展示会をはじめ、築130年の酒蔵「十八間蔵」を改修して誕生した町の小さな美術館「はじまりの美術館」にていなわしろ町民大学のメンバーや建築士会、まちづくりに興味のある人たち、美術館スタッフなどと一緒に「観光と農業のまち猪苗代におけるリノベーションの可能性と課題」と題し意見交換会を行いました。これを機に、この美術館で毎月建築士会の定例会を開催するようになりました。今はこの「はじまりの美術館」を中心として、町が新しい若い動きになっているのを感じます。

	設計	施行	行政団体等	合計
県北	19	6	5	30
県中	15	3	2	20
県南	3	1	0	4
会津	10	2	2	14
相双	1	0	1	2
いわき	1	1	0	2
合計	49	13	10	72



郡山市・安積歴史博物館 展示室



福島市・瀬上 嶋貫本家



猪苗代町・はじまりの美術館



はじまりの美術館 意見交換会

「古民家の改修・人とひとを繋ぐ」.

岩手県建築士会
長澤 紗織

築 100 年以上受け継がれて来た 3 軒の古民家の改修事例をご紹介します、これらの改修を通して設計者として感じた事をお伝えしたいと思います。

1. イグネ（防風林）の木を使う

一軒目は田園地帯の平家建て農家住宅です。イグネが成長し家の中は暗く、寒く、段差も大きく、お母様はリュウマチで歩けない状態でした。しかし調査を進めると檜の太い柱が何本か有り、小屋組も立派な構造で十分な強度が有る建物と判断しました。そして日陰の原因であるイグネを伐採製材し使用する断熱改修を提案しました。



上の写真は基礎を新たに作る為に建物を 1.2メートル揚げた状態です。イグネから製材した材は主に間柱、胴縁に使用しました。現場発泡で断熱し、雨落ち部分は暗渠排水にし、土が流れない工夫をしました。床下から出た石も全て使い可能な限りの再利用を心掛けました。

室内の段差は解消しましたが、和室だけは威厳を持たせる為 13センチ上げました。親戚が大勢集まれる和室の通し間は地域柄大事です。完成祝いの日、分家さんから「実家を残してくれてありがとう」ととても感謝されたのが印象的でした。

2 建主参加型ローコスト改修

二軒目は棚田が多い山あいの集落の畜舎付平家建て農家住宅です。昭和時代に茅葺屋根を切妻鉄板葺に変えたそうですが亡くなったお祖母様が口癖の様に「この家は良い建物だから絶対に壊してはならないよ」と建主さんに言い聞かせていたそうです。小屋裏調査の時に一緒に上がった建主さ

んはお祖母様の言っていた意味が理解出来たそうです。室内は段差が多く湿気で床は危険な状態でした。とても厳しい予算だったので工事費が合わず何度も設計変更をしました。断熱だけはしっかりやらなければならないので床は全面撤去しクッションフォームを充填、壁は複雑なので現場発泡し、天井はグラスウールを敷込みました。床は県産の杉でスリッパ無しの暮らしを提案しました。ローコストなのでクリーニング、塗装、カーテン取付けを建主さんにお願ひし、各寝室は石膏ボードのままコストを下げました。暖房は家の中心に暖炉だけです。

建主さんは地域で神楽をやっているのです、完成祝いには保存会の方々に舞ってもらいました。とても素晴らしい神楽で本当に感動しました。



設計から完成までは 10 年の歳月がかかりました。左側の息子さん権太郎君は学校帰りに一直線に現場にやって来ます。工事の事、職人さんの事、神楽を舞ったお父さんの事もきっと良い思い出に残っている事でしょう。

3 断熱しない離れの改修

三軒目は焼石岳がよく見える田園地帯の農家住宅です。カリスマ台風で水害に遭い、その後に茅葺屋根を鉄板葺きに替え、揚家をして基礎を作ったそうです。この建物も建替えか改修かを時間をかけて話し合いました。この地域も葬祭を家でやる風習が残っているので多くの人が集まります。近所の奥様達が台所を手伝うのでそれなりの広さが必要になる訳です。しかし一生に数回の為に広い座敷と台所を造るのは勿体ないので、住居部分は必要最低限の広さで新築し、葬祭や農作業の休憩の為に古民家は残し一部分のみ断熱せずに改修する事になりました。見事な小屋組みの土間ではありますが昔に戻っただけかも知れませんが、生活

の場ではないので違いはありますね。

それから 14 年が経ちました。

ガーデニングが趣味の奥様が手入れして来たお庭も素敵になりました。



奥様の好きな風知草からこの旧宅を「風知荘」と名付けたそうです。座敷は昔のまま残し、改修部分では古めかしい仕上げにこだわりました。非断熱なので主に春から秋に使用する離れですが残した事でとても楽しく暮らしていらっしやいます。

葬祭は何回か行い予定通りに事は運んだそうです。土間に流しとトイレがあるので近所の奥様達もお手伝いには十分です。住居と往復する事も無く、奥様は精神的にも楽だったそうです。

「風知荘」は音響がとても良く、夏は涼しいのでお孫さん達が大好きな空間だそうです。

毎年 2 回程「古民家ギャラリー」として展示会を開いていますが、いつかこの音響の良い土間で音楽会をやってくれないかしらと密かに願っています。

古民家の改修の楽しさ

1. 先人は自然や地形を上手に活用して建てていた事に気付く
2. 経年変化した太い柱や梁は唯一無二の宝物
3. 改修だからこそ「家の歴史、ご先祖様」の事をお年寄りに聞き話し合う機会が持てる
4. 古い物を大切にすることを次世代に継承出来る
5. 分家の人達にとっても感謝される
6. 腕の良い職人さんが水を得た魚の様に生き生きとしている（それを見てこちらも楽しい）

古民家の難しさ

1. 掘り所になる資料がほとんど無い（登記、図面）
2. 敷地の境界が不明
3. 増改築を繰り返しているので見えない部分の

予測が困難（開けてびっくり玉手箱）

4. 新旧寸法が混じり図面化が難しい
5. 何世代かの同居が多く、意見がまとまりにくい
6. とにかく荷物が多く、捨てられない世代の説得に時間がかかるのは覚悟すべき
7. 住みながらの改修が多く、引渡しが曖昧になりがち（きちんとした完成写真が取れません）
8. 現場合わせが多く木を知り尽くした職人さん（特に大工）が絶対必要
9. 改修は新築より安いと思っている人が多いので納得するまで十分な説明が必要
10. ご近所の興味が半端ない

最後に

本当の豊かさとは何でしょうか？

日本は物質的には豊かになりましたが、一方では時間と手間を惜しむ合理主義になり、残念な事に古民家を持つ人達は安易に建て替えをしています。歴史ある伝統的建物を壊す事は歴史を断ち切る事です。経済優先の世の中ですがお金では買えない価値ある物に気がつかないのは残念な事です。

「寒い、暗い、段差が多い、収納が少ない」等の問題を現代の技術で解決さえすれば「日本らしい四季折々の豊かな暮らし」を楽しむ家が出来ると思います。

全国的に建物の特色が無くなっている昨今、古民家再生は特色ある景観に一役買ってくれるでしょう。

家を守り歴史を大事にしている家で育つ子供は心豊かに成長出来るでしょう。空家となった古民家を若い人達が買って面白く改修し子育てをする事も、私は建築士として、母親として提案して行きたい事の一つです。

職人不足は深刻な問題です。

大工、左官工、表具士等技術ある職人さんが誰も居なくなってからでは遅過ぎます。

「合理的な建て方」が有る一方で「手間隙をかける建て方」は残して行かなければなりません。その仕事を作る事が職人を絶やさない道ではないかと考えます。

東北はとても寒いです。断熱無しで生活するのは無理な事だと思います。未だ残っている古民家を寒冷地仕様で再生し、「古くて新しい暮らし」を次世代につなげるのは私達女性建築士が一番近い所に居るのではないのでしょうか。

平成28年度 東北ブロック会女性委員会いわて大会 懇親会プログラム

平成28年9月3日(土) 午後6時45分～
つなぎ温泉 愛真館 別館2階 大宴会場「朝日」

■ 懇親会次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 来賓挨拶
4. 来賓紹介
5. 乾杯
6. 祝宴
ビンゴ大会
さんさ踊り
7. 手締め
8. 閉会

■ ビンゴ大会 県内各支部より協賛品が御座います。

■ さんさ踊り 『いわてさんさの会☆☆☆加藤家☆☆☆』

盛岡さんさ踊り、今年最優秀賞、毎年賞を受賞されている常連団体です。
さんさ踊りの演目には、七夕(たなばた)くずし、栄夜差(えやさ)踊り、
福呼(ふっこ)踊りと多様な踊りが御座います。
懇親会では皆様と輪踊りで七夕くずしを踊りましょう。

エクスカーション

■ 盛岡市鉾屋町 町屋散策



江戸時代から明治時代にかけて、北上川舟運の時代に栄えた場所で、旧奥州街道、遠野・釜石街道、宮古街道の玄関口としての重要な場所である。

湧水等の水にも恵まれ、酒造店も多く立地し二つの共同井戸も近接して残っている。

平成15年に住民と専門家を主体とした盛岡まち並み塾が設立され、町屋の暮らしを見直すとともに、町屋等の歴史的建造物群を保存・活用する活動を行っている。

もりおか町屋物語館

〒020-0827 盛岡市鉾屋町10-8 TEL:019-654-2911

ステラモンテ (昼食会場)

〒020-0827 盛岡市大慈寺町10-34 TEL:019-624-7206

番屋



大慈清水休み処付近



もりおか町屋物語館



木津屋本店・旧池野家町屋



青龍水



ステラモンテ

